

④ 昭和39年12月「県政ニュースNo. 63」



・五輪選手郷土入り：体操 遠藤選手ら
東京オリンピック代表として、大活躍した本県選手が、そろって郷土入りし、この程、秋田市立体育館でその報告会が開かれました。東京大会そのままのブレザーコートで、各選手が大会の模様を報告しましたが、県からは記念品を贈って、参加選手の労をねぎらいました。また、この日、遠藤選手に県の特別功績賞が贈られました。これは、ローマ大会で活躍の小野選手に次いで二人目で、遠藤選手の個人総合優勝の偉業を讃えたものです。日本体操チームの原動力となった小野キャプテンら4選手が知事を訪れましたが、東京大会の話題で一杯でした。

翌日、遠藤選手は、感恩講児童保育院を訪ねました。ここは、遠藤選手が少年時代を過ごした所で機会あるごとに訪れて子供達とは顔馴染み。金メダルを見せてもらって子供達は大喜びです。競技の模様や選手村の話題など楽しい一時でした。こうして、オリンピックで活躍した15人の本県選手は、それぞれ輝かしい記録をお土産に郷土の期待に応えたのです。

⑤ 昭和44年9月「県政ニュースNo. 117」・天皇ご夫妻の県内ご視察



久しぶりに青空がのぞき、初秋の気配が立ちこめた8月25日、天皇・皇后両陛下は、本県ご視察のため、秋田駅にその第一歩を記されました。昭和36年10月の秋田国体以来まる8年ぶりのご来県に、駅頭にはおよそ5,000人の市民が出迎えました。（略）

秋田博をご覧になった両陛下は、高清水が丘の県護国神社にお出でになりました。老人クラブや婦人会、遺族会など感激で涙を流さんばかりのお年寄りの姿も見られる中でご参拝。わき起こる万歳の声に陛下は何度も応えられていました。（略）

そして、8月29日。4泊5日という地方事情のご視察では異例の長期ご滞在で、7市町村13箇所をご視察。距離にして、446.5キロという、きついご日程にも関わらず、すこぶるお元気で全ご日程を終えられ、名残惜しげに田沢湖駅から那須御用邸にお帰りになられました。

～次回は11月3日（土）に開催予定です～

■秋田県公文書館■

〒010-0952 秋田市山王新町14-31

TEL 018-866-8301

FAX 018-866-8303

E-mail koubun@apl.pref.akita.jp



【公文書館からのお知らせ】

平成30年度企画展「秋田と海」

前期：8月25日（土）～9月24日（月）

後期：11月2日（金）～12月4日（火）

当館2階特別展示室で開催中！

県政映画上映会

～秋田昭和の時代 映像アーカイブ～

平成30年8月29日（水）
午前の部 午前11時～正午

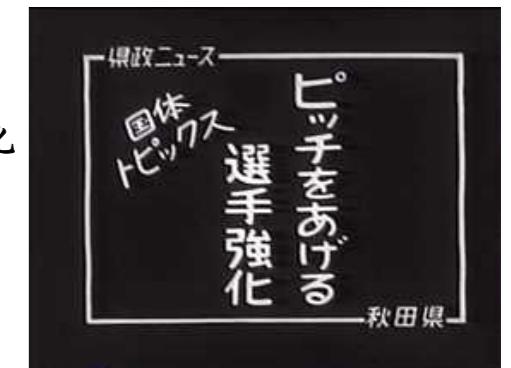
秋田県公文書館 3階 多目的ホール
午後の部 午後2時～午後3時

本日のプログラム

◆ ごあいさつ ◆
◆ 前半

① 昭和36年8月「県政ニュースNo. 35」

- ・空から農薬散布
- ・国体トピックス～ピッチをあげる選手強化
- ・県民の窓～男鹿の大謀綱



② 昭和37年5月「県政ニュースNo. 40」

- ・37年度予算決まる～初の200億円台
- ・分校の新学期（旧西木村）
- ・春は空から～秋田空港に東京便就航

◆ 後半

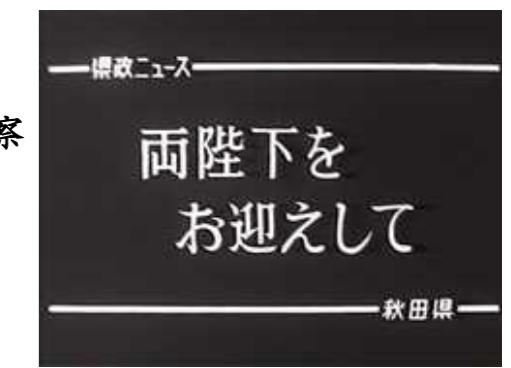
③ 昭和37年9月「県政ニュースNo. 43」

- ・へき地を行く県庁～移動県民室
- ・今日はふるさとさん（旧東由利村）
- ・成人病をなくそう！
- ・夏を惜しむ十和田湖



④ 昭和39年12月「県政ニュースNo. 63」

- ・鯛の浜焼きに成功（男鹿市）
- ・五輪選手郷土入り～体操 遠藤幸雄選手ほか
- ・ふるさと散歩～大館市 秋田犬、曲げわっぱ



⑤ 昭和44年9月「県政ニュースNo. 117」

- ・両陛下をお迎えして～天皇ご夫妻の県内視察
農業大博覧会、護国神社、男鹿水族館
寒風山、大潟村、仁別国民の森、田沢湖

～はじめに～

郷土秋田のニュース映像を5本上映！



かつて「県政映画」は、「県政だより」「県政ニュース」などの名前で、県内各地の映画館で幕あいに上映され、その時々の県政に関するニュースや各地域の話題などを提供していました。

秋田県公文書館では、これら県政映画を保存し閲覧室で公開しておりますが、スクリーンで上映し大勢の皆様でご鑑賞いただく上映会も開催しております。

今回は「県の記念日」にあわせて、昭和30年頃の東京五輪に関するニュースのほか、ふるさとの美しい四季を紹介する映像など5本の作品を上映します。

どれも当時を偲ばせる貴重な映像ばかりです。懐かしい昭和の秋田をぜひご覧ください。

～ナレーション採録～ ■ナレーションの一部を採録しました■

① 昭和36年8月「県政ニュースNo. 35」

・国体トピックス～ピッチを上げる選手強化



秋田国体も、あと二月。夏休みに入った県内の各高校では、一斉に選手の強化合宿に入りました。

まず、馬術競技の行われる角館町では、国体の競技場に予定されている中学校グラウンドで、地元角館高校が、盛んに障害を飛んでいます。馬術は、乗る人と馬との調和が難しく、そのコツをつかむのはなかなか大変。選手達は、去年、熊本国体で見事成し遂げた優勝を今年の秋田国体でも是非実現しようと、張り切っています。

ここ、秋田市八橋に新しく出来上がった青年の家では柔道の合同合宿が、朝夕の激しい稽古を繰り返しています。毎年、今一息のところで優勝を逸している本県選手に、更に積極的な攻めの技術を教える先輩達の表情も真剣そのもの。選手達は、「練習で泣いて、試合で笑え。」をモットーに国体出場への闘志を燃えたせています。

こちらは、秋田工業高校ラクビー部の強化合宿。ここでは、今年も全国制覇を目指して激しい練習が、降りしきる雨の中も続けられます。トライ、またトライ。タックル、またタックル。全身泥にまみれての、このような猛練習の中から全国に誇る伝統の強さが、生まれてくるのでしょうか。こうして、各種目にピッチを上げてゆく本県選手の強化合宿は、今、全県民の大きな期待の中に県内の各地で続けられているのです。



「県の記念日」とは？

明治4年の廃藩置県によって“秋田県”が誕生した8月29日を記念し、昭和40年に制定されました。

② 昭和37年5月「県政ニュースNo. 40」

・分校の新学期（旧西木村）



花の便りもそこそこに聞かれるこの頃。仙北奥地にも、やっと春が巡り、山々は小雨にけむっています。ここは、西木村桧木内の相内湯。村の中心から14キロも離れた、わずか11戸の小さな部落です。この相内湯は、田沢湖の名所、御座石の名で知られていますが、今は訪れる人影もありません。湖に面した丘に建っているこの小さな校舎、相内湯分校では、今、入学式が行われています。（バックに、歌声、伴奏が流れる）

6人の生徒に、今度2人の1年生が加わり、

8人がこの全校生徒です。2人の新入生は、本校の先生や部落の人達の祝福を受けました。学校が始まり、子供達はそろって登校します。先生が一人で、この8人に教えていますが、複式授業でなかなか大変です。（略）初めは何一つ無かった教材も、今では山奥の分校には珍らしい程たくさんそろっています。テレビ、ラジオ、プレーヤー、テープコーダーなどの他、こんな立派な理科教材もありました。更に今年は、子供達の待っている体操場を兼ねた集会所と裏山をならしてグラウンドを造る計画が進んでおります。相内湯分校の新学期は、いつになく明るく希望に包まれているようです。

③ 昭和37年9月「県政ニュースNo. 43」

・へき地を行く県庁～移動県民室 知事も同行



県では、皆さんの暮らしと県の仕事を直結させ、より良い社会をつくるための努力を続けております。移動県民室もその一つで、これは知事が直接現地を回り、県に対する要望から細かい苦情まで、膝を交えて話し合い、生の声を県政に反映させるため、7年前からやっている、いわば動く県庁です。今年は、文化の恩恵少ない地区を重点的に取り上げていますが、このほど行われた鳥海村

も、熱心な地元の人達が会場を埋め、無電灯や医者の問題、道路など、生活に直結した数々の問題が出されました。教育費の父兄負担の質問について知事は、「当然、税金で負担すべき面をですね、父兄負担に転化する面が多いのでありますので、たとえば高等学校のごときは、定時制の時は、薪代や電灯料、そういうもの一切も父兄負担にしておったと。逐次私の方で計画を立てまして、今年は薪代の負担を無くする、今年は消耗品の負担を無くすると、こういう風に逐次解消をいたしております。」

この後、知事は直接農家を訪ねて、この地方の生活事情を聞いたり村の様子を見て回りました。こうして得た県民の声が直接足がかりとなって県政は動き、住み良い私たちの秋田県になっていくのです。

「8月29日」は県の記念日です。秋田県は今年（平成30年）で、147歳を迎えます。

